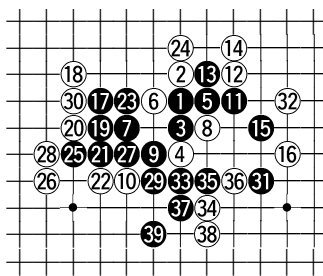


# 松月定石の一研究 (5)

九段 河村典彦

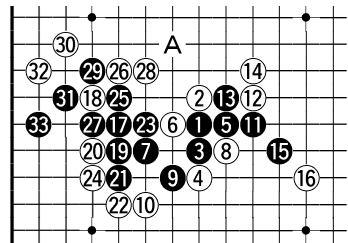
今回から、その他の白14の変化を調べて行こう。もともと、最防の白14以外は黒勝ちと言われてはいたが、はっきりとは発表されていなかった。そこで、ついでにその他の白の止めもこの際解決しておきたい。

【第38図】白14がどう見ても強い防ぎ。これには黒15と構える(もちろん四追い含み)のが当然ながらうまい。対して白20と止める手から考えてみよう。黒21から順次三を引いていくのだが、一つずつ逆止めの検証をしていく必要がある。大体は「引いた方に止める」のがやはり強い。その意味では白22の方が強く、これには右辺とつなげた勝ちが出る。黒23と一本見せたのはおまじないのようなもので、要は白30を絶対にしよという狙いである。黒31が右辺の剣先とつなぐ一手で、白32をどこに止めても以下四追いとなる。左辺だけを見てはなかなか厄介であるが、盤面全体を見ることで思わぬ勝ちを見つかることもある。実戦でも広く見ることを心がけたいものである。



【第39図】白24の変化を一応やっておこう。前図の勝ちを防ぐために白24と尻から防ぐのは有力だが、それには黒25、27としつこく

第39図

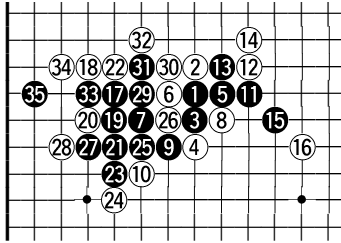


がら追い手が打てないのが辛い。

【第40図】白22の反対止めに移ろう。これには黒23と27とあえて四ノビを打ち、黒29と切り込んでいくのが爽快な手順である。黒23、27の意味は最後になってわかるのだが、白30と打たれても一旦黒31で切ることが

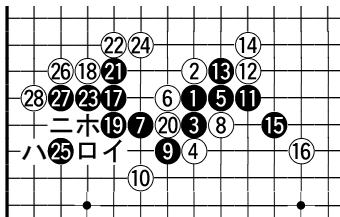
のできるのが黒の強みで、黒33と引けば黒の勝ち方の基本形になっているのがわかるだろう。黒35までで四三であるが、白30を反対も乗り切り勝ちである。黒23、27の四ノビが最後の四三の三となっていて、先程四ノビはあまりしない方がいいと書いたばかりなのにすぐ裏切るが、この場合は四ノビをしなないと勝てなくなる。一般的には局地戦になった時には四

第40図



ノビをした方が勝てるというのも経験則ではある。

【第41図】続いて白20の変化に移ろう。こうした根元を止める

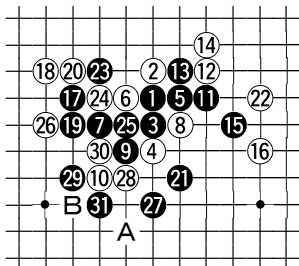


手は意外に強い。この防ぎに対しては、ノリ手にならないように黒21と引くのが肝要。白22の止めを待つてまたも黒23とミセ手を打つのが妙手。白も24の止めが最強防だが、これには黒25とフクミ手を打つ。白26の防ぎには黒27と引き、黒29からイロハニホの四追いで収束する。白26をイヤロなどの防ぎには、今度は27、ニ、ホまでとなる。なお、白22を反対止めなら黒24とミセるのがまた妙手で解決する。

第41図

【第42図】前図の防ぎは根元から止める発想であったが、この白20はノリ手に頼った防ぎである。もちろんこういふ手も防ぎとしては

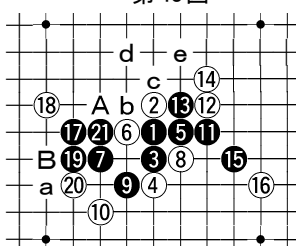
第42図



有力で、黒としてはやっつかいだ。白20で斜めの筋と横をノリ手にしている。これには落ちて着いて黒21とミセ手から攻める。白22はやむを得ない。そこで黒23とノリ手を切りながら見せるのがまたうまい。白も24とノリ手で防がないと、黒から24に引かれてしまうので、絶対の所だ。こうしておいて、黒27と打てばようやくゴールが見えてくる。白28は四追いを防ぐにはこ

しかないが、黒29から31でびつたりの両ミセになっている。

【第43図】最後に、この白20について考えてみよう。一見この20は

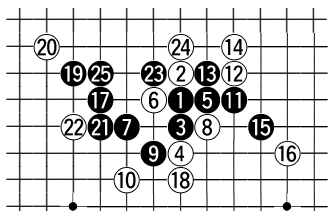


かなり強そうに見えるが、実は強防ではない。というのも、黒21に見せられると、白22をa・eどこに止めても次に黒A後Bで四三となるからである。これまでのうっとうしい勝ち方からすれば何と簡単に勝てるのだろうか。これも、白の防ぎが急所についていないからであり、ノリ手か根元を止める防ぎが松月定石では有力であることが改めてわかるだろう。

第43図

【第44図】先にも述べたが、簡単と思う防ぎが実は簡単ではないのも松月定石の特徴でもある。白18の逆止めもそういう意味では少

第44図



しやっつかいだ。これにはわかりやすく黒19と伸びてから21に組んで良さそう。白22の止めなら、黒23とここでミセ、黒25と引けば白どちらに止めても以下四追いとなる。白22のその他の変化については皆様の研究にお任せしよう。あ、そうそう、白16の反対止めも一応やっておいた方がいいだろう。とにかく、松月定石は細かい変化までやっておかないと、思わぬ変化で足をすくわれる場合がある。